

各領域の「授業科目」の概要

領域	授業科目及び担当教員	授 業 科 目 概 要		
地 域 健 康 シ ス テ ム 看 護 学	地域健康疫学 教授 斉藤 功	特 論	公衆衛生の視点に立ち、地域が抱える健康課題を疫学の手法を用いて把握し、それを解決していくための方法論を習得する。特に循環器疾患の疫学を中心にこれまでの対策から評価までを論じる。欧米と比較しながらわが国固有の循環器疾患の危険因子を理解し、施策へつなげていくための基本的な考え方を概説する。	
		特別演習	地域でのコホート研究等の実例をもとに、統計ソフトを活用し、統計学の基礎からより複雑な多変量解析に至るまでの具体的な演習を行う。医学統計で用いられる分析手法について理解し、地域や臨床など様々な看護研究の場面で応用ができるスキルを身につける。	
	地域看護学 教授 西嶋真理子	特 論	地域看護学が対象とする領域の中で特に集団の健康支援のための理論と看護実践について学び、地域、学校、職場等の生活の場で、集団全体の健康のレベルアップのために応用できる援助技術を追求する。それにより、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるプロセスを支援するために必要な地域看護ケアの展開方法と技術を学習する。	
		特別演習	地域で生活する人々の健康の向上をめざして、地域看護学の領域の中でも特に個人、家族、集団のニーズ分析、ニーズに合った介入方法、組織的働きかけ、社会資源の開発等について、国内、海外の文献を活用して、討議する。また、地域看護ケアの評価についても演習をとおして学習を深める。	
	高齢者看護学 教授 陶山 啓子	特 論 I	高齢者看護に関わる諸理論や概念を学習し、高齢者に特有の健康上の課題と高齢者の潜在能力を引き出しQOLを高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいた看護が実践できる能力を養う。さらに、老年看護専門看護師の役割・機能について理解する。	
		特別演習 I	慢性期（急性増悪期を含む）～回復期の複雑で多様な疾病とその症状および健康障害をもつ高齢者とその家族への看護を実践するために必要な理論やモデルについて学ぶとともに、病態や症状、高齢者および家族のセルフケア能力等を総合的にアセスメントし、高齢者の意思と暮らし方を尊重した援助が実践できる能力を養う。	
	在宅看護学	在宅看護学 准教授 田中久美子	特 論	地域ケアシステムにおける在宅看護の現状や、医療と福祉の状況について把握し、療養者を中心とした在宅看護の諸理論と方法について学習する。 また、医療と福祉の連携における在宅看護の現状と課題について探る。
			特別演習	在宅や福祉施設で療養生活を送る高齢者を対象とした研究論文を検索し、それらの考察や討議を通して、在宅ケアのあり方を探求する。
	在宅高齢者看護学	在宅高齢者看護学 講師 小岡亜希子	特 論	高齢者の発達課題および環境との相互作用について理解し、高齢者観を深めるとともに援助者のあり方を考える。 さらに、高齢者のその人らしい生活を支援するために、理論に基づく援助方法を学ぶ。
			特別演習	高齢者の包括的な機能評価の意義と方法を理解し、対象者が必要としている看護援助を明確にする。 さらに、排泄および摂食嚥下機能に関する機能評価の方法と機能に応じた援助方法について理解し、研究成果の看護実践への活用について検討する。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
地域 健康 シ ス テ ム 看 護 学	老年精神地域 包括ケア学	特 論	現在、高齢者を取りまくわが国あるいは世界の現状、今後わが国が推進しようとしている施策について概観し、高齢者、特に認知症の人とその介護者についての理解を深め、医療人のプロとして如何に関わるかについて学習する。認知症を呈する代表的な疾患について学ぶとともに、認知機能障害やうつ、妄想、意識障害などについて考えられる心理的、あるいは神経基盤について考えながら、エビデンスとナラティブの両面からアプローチできる知識と知恵の習得を文献、症例検討などを通して目指す。
	教授 谷向 知	特別演習	医療・介護あるいは地域・在宅の現場で感じられるさまざまな問題、疑問を研究テーマに取り上げる。日常の疑問点を検証し、直観を確証に発展させるために、評価法や過去の文献を学び、研究をデザインし、データ収集し、ディスカッションを行う。認知症看護、老年看護の専門職として確信を持って臨床現場で看護・介護指導、多職種との建設的な意見交換に還元されるエビデンスとコミュニケーションスキルを身につけることを目指す。
	地域精神 看護学	特 論	精神看護学が対象とする事象のうち、各自の看護実践の中でとくに問題解決のために働きかける必要があると認識していることや、地域で生活する障害児者や認知症者、およびその家族の生活支援についてとりあげる。諸理論や先行研究に基づいて現状を把握し、知識を習得するとともに、看護上の課題を明確にする。また、参加者による意見交換から様々なアプローチ法について検討する。
	講師 柴 珠実	特別演習	地域でのフィールドワークを実施する。特論で得られた視点を持って臨み、現地でのディスカッション等の成果を含めてレポートをまとめ、研究課題を明確化する。
	看護生理学	特 論	看護技術が提供された際、対象者の身体にどのような変化が起こるのか、また何を評価指標とすればよいのか、そしてそれはどのような機序で起こるのか、生理学的な視点から看護技術の科学的根拠を探求する方法を学修する。また、国内外の研究論文を題材に、研究を行う上で必要とされる論理的な思考能力を養う。
	教授 佐伯 由香	特別演習	生理学的手法を用いて、実際に行われているケアが対象者にどのような影響を及ぼしているのか、自ら実験して評価してみる。また、より効果的なケアについて考察し、看護技術の科学的検証について学修を深める。
基 盤 ・ 実 践 看 護 学	基盤看護学Ⅰ 教授 乗松 貞子	特 論	対象者に安全・安楽で質の高いケアを提供するためには、科学的に裏付けられた看護技術を修得することが必要である。そこで、これまで臨床において経験的に実施されてきた看護技術のなかで、現在科学的検証のなされている内容について、そのEvidenceを文献を通して確認するとともに、科学的検証の方法論を学ぶ。
		特別演習	臨床において、これまで経験的に実施され、未だ科学的な根拠の明らかでない看護技術に関して、いくつかの内容を取り上げ、文献、調査、実験等の様々な方法論を用いて、そのEvidenceを明らかにし、科学的に裏付けられた看護技術を確立していくための基礎とする。
	基盤看護学Ⅱ 准教授 赤松 公子	特 論	調査研究では、数種類の尺度を用いて調査を行うことが多い。また、実験研究でも尺度を実験条件の割り当てなどに利用するが、既存の尺度が研究目的に適合しない場合には、新しい尺度を開発することになる。本特論では、既存の尺度を概観するとともに、尺度開発の手続きについて学習する。
		特別演習	本特別演習では、特論で学習した知識をもとに、自ら模擬的な尺度を構成する。そして、その尺度を用いて、調査、ならびに分析を行ってみる。最後に、学習者らの構成した尺度の特徴、適応の仕方、限界について議論する。
	基盤看護学Ⅲ 講師 城賀本晶子	特 論	対象の性格特性は、健康の維持と回復を図る上で重要な役割を演じている。性格特性とは何か、如何に区分できるか、代表的な方法論を文献的に提示して、背景要因としての重要性を論じる。
		特別演習	自我状態の研究から確立された性格特性、さらに自我透過性調整力、ストレス対処行動様式などを採り上げて、性格特性について演習する。

領域	授業科目及び担当教員	授 業 科 目 概 要	
基 盤 ・ 実 践 看 護 学	内科系 病態生理学	特 論	最近の生活習慣病対策の動向を把握し、生活習慣病に伴う心血管病の発症を予防するため、如何なる対策が最も効果的であるかについて文献的検討を行なうとともに、看護の介入について学習する。
	教授 重松 裕二	特別演習	冠動脈硬化の診断に欠かせない最も基本的な検査法である心電図検査について概説し、実際の症例について診断を進める。また、生活習慣病をもつ患者や家族に対する生活習慣病予防教育の実際を学習する。
	外科系 病態生理学	特 論	生活習慣病の増加に伴い、血管疾患は増加傾向にある。動脈疾患と静脈疾患の差異を診断過程・病態・治療方法の面から対比し、現場の最善の対策と観察注意点について知識を深め、看護の役割について学習する。
	教授 八杉 巧	特別演習	血管疾患の診断に必須である局所所見の観察と状態の変化について解説し、実際の症例において病状把握のための判断を進め、その時点での必要な検査・初期治療について画像所見とともに学習する。また、入院期間中の効率的な治療・看護計画について考察を進める。
成人看護学		特 論	慢性疾患のある患者の実践・教育・研究についての最新の動向を理解し分析する。慢性疾患のある患者とその家族の特徴を理解し、より専門的かつ高度な看護実践を提供する上で必要な概念や理論等について学修する。
		特別演習	慢性疾患のある患者とその家族の主要な健康上の問題を理解し、在宅ケアや地域医療を含めた治療前から終末期の一貫した援助を探求する。
リプロダクティブヘルス看護学		特 論	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、ライフサイクル各期にある女性の健康への影響要因や支持理論、ガイドラインを学び、女性の健康の向上に向けた支援方法を探求する。
		特別演習	フィールドでの経験を基に、ライフサイクル各期にある女性の対象理解や臨床判断を通じて、必要な看護モデルを検討する。
小児発達看護学		特 論	小児を対象とした成長発達、セルフケア、コーピング、プリパレーションについての理論やモデルを用いて、子どもの健康状態についてアセスメントを行い、小児看護の専門的な支援方法について学ぶ。また、小児をとりまく家族を支援の対象者として捉え、家族発達理論・家族システム理論、家族ストレス理論などの諸理論について学び、子どもや家族が必要としている援助方法を学習する。
		特別演習	小児看護の臨床場面において、臨床判断に基づき状況に応じた援助を行うための専門的な方法について学ぶ。文献や実践現場での具体的事例から子どもや家族の行動の理解と臨床判断の過程を分析し、小児看護の専門的な援助方法や技術、介入の効果についてディスカッションできる。小児と家族を対象とした看護研究の特殊性と基礎的知識や手法について学ぶ。

領域	授業科目及び担当教員	授 業 科 目 概 要
共通 授 業 科 目	看護教育論 教授 陶山 啓子	看護教育制度の変遷や現状の課題及び生涯にわたって主体的に専門性を高めていける看護職育成のために必要な理論と方法を学習する。学習援助型の教育における教育者のあり方について、自らが経験した場面を活用して検討する。さらに、基礎教育、卒後・継続教育、患者教育における教育プログラムの作成をとおして、看護職が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得する。
	看護管理論 教授 乗松 貞子 非常勤講師 関谷由香里	現在の医療制度などの外部環境を踏まえながら、看護管理のプロセスとしてのインプット（人、物、資金、情報、時間）、プロセス、アウトプット（看護成果、患者満足、職務満足、質改善、エンパワメント）について分析、探究する方法を学習する。そのために必要な思考を組織論、マネジメント理論、人的資源活用論、リーダーシップ理論などに関する文献学習や討議をとおして養う。
	看護理論 非常勤講師 川原由佳里	卓越した看護実践の基盤となる看護の諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。講義では看護実践・理論・研究に影響を及ぼしてきた理論と思想の変遷を理解し、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析する。またそれらの実践事例への適用を試み、その批判的検討を通じて、臨床看護の実践、理論、研究の基礎となる看護の理論的基盤を模索する。
	看護研究 方法論 教授 薬師神裕子 佐伯 由香 斉藤 功	看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点を持ち、看護の実践知を論理的・体系的に捉え、看護実践の改善に役立てていくことが必要となる。本科目では、看護における研究の意義を理解し、看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を修得する。
	看護研究 演習 教授 薬師神裕子 准教授 赤松 公子	看護研究における研究デザインや前提となる条件、科学的推論方法について学び、信頼性・妥当性の検証、データの活用方法を具体的かつ実践的に探求する。
	コンサルテーション論 非常勤講師 添田百合子 吉田美由紀	コンサルテーションの意義や方法等について受講生の経験を踏まえ、プレゼンテーションや討議をとおして学習する。さらに、コンサルテーション活動を行うために必要な医療専門職、保健や福祉領域の専門職に対して相談し、調整できる基礎的な実践力を修得する。
	看護倫理 非常勤講師 関谷由香里	生命倫理、医療倫理、看護倫理の歴史の変遷、基本概念、倫理的意思決定に関する方法論を学ぶ。また、先行文献の看護実践における倫理問題の分析方法、倫理的意思決定・倫理的アプローチの方法（ツール）を用いて、各自が体験した倫理問題の事例を具体的に検討する。この過程の中で、臨床における倫理問題の解決又は発生予防のための、他の職種との関係調整の方法について考える。
	看護政策論 教授 西嶋真理子 斉藤 功	人々のニーズに寄り添い、QOLを高める保健・医療・看護を実現するために、看護の質の向上を政策的に推し進めていくための仕組みや看護政策の機能を理解する。看護の歴史的展開過程を踏まえ、将来を展望し、現行の法制度における課題を分析する視点を持ち、演習をとおして課題解決や健康政策策定のための基礎的能力を修得する。
	生体情報論 教授 佐伯 由香 准教授 赤松 公子	人間の身体は、外部環境及び内部環境の変化を感知し、情報を統合することによってホメオスタシスを維持している。本科目では、生体が行っている情報処理の構造と機能を理解し、生体内で行われている生命活動を科学的かつ論理的に理解する能力及び看護実践に生かせる応用力を養う。
	統計学 教授 斉藤 功	科学的な看護の実践を支えるためには、統計学の知識が必須である。本講では、単に統計にかかる数学的な解説にとどまらず、疫学の基礎を取り入れながら臨床の実践で応用可能な知識と理論の修得を目指す。

領域	授業科目及び担当教員		授業科目概要
共通授業科目	臨床薬理学	教授 佐伯 由香 八杉 巧 谷向 知	薬理学の基本的な知識を元に、使用されている薬剤の特徴、作用様式、副作用などを理解する。さらに実際に薬物療法を受けている患者のモニタリング、症状管理、服薬管理、服薬指導について具体的に学び、看護実践に活かす能力を高める。
	フィジカルアセスメント	教授 重松 裕二 非常勤講師 関谷由香里	看護実践に直結する対象からの看護情報を的確に収集し、アセスメントするための知識や技術を学ぶ。
	病態生理学	教授 佐伯 由香 八杉 巧 重松 裕二	主要な症候の起こるメカニズムを理解し、主な疾患と症状との関連、使用している薬剤との関連について理解を深め、エビデンスに基づいたアセスメントができる能力を養う。

老人看護専門看護師養成プログラム

	授業科目及び担当教員		授業科目概要
専門分野基礎科目	高齢者看護学特論Ⅰ	教授 陶山 啓子	高齢者看護に関わる諸理論や概念を学習し、高齢者に特有の健康上の課題と高齢者の潜在能力を引き出しQOLを高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいた看護が実践できる能力を養う。さらに、老年看護専門看護師の役割・機能について理解する。
	高齢者看護学特論Ⅱ	教授 陶山 啓子	高齢者の生活上のニーズを把握するために、総合機能評価に用いられる評価指標とその使用方法について理解する。また、ICFの提唱するモデルや総合機能評価を活用した看護実践について学習し、包括的なアセスメントの必要性や活用方法について理解する。
	高齢者病態治療論	教授 谷向 知	高齢者に起こりやすい疾患や判別を要する症状の病態・検査・治療について学習し、適切な判断に基づく看護を実践するために必要な知識・技術を修得する。
	高齢者生活援助論	教授 陶山 啓子	複雑な問題を抱える高齢者の健康課題や生活機能障害について、疾患の影響や診断・治療をふまえた身体・心理・社会機能のアセスメントに基づき、高齢者の潜在能力を引き出し、QOLの向上を意図した看護援助を選択し、実践できる能力を養う。
	高齢者支援システム論	准教授 田中久美子	日本の保健医療福祉施策の変遷、現状と展望を学ぶとともに、介護保険制度におけるサービス、制度外サービスおよびソーシャルサポートの内容についての理解を深め、高齢者のニーズに応じたサービスが選択できる能力を養う。さらに、高齢者のケアシステムについて、地域の先進的な取り組みからシステム構築のプロセスを学び、高齢者ケアに必要なサービスやシステムについて提案できる能力を養う。
専門分野専門科目	高齢者看護学特別演習Ⅰ	教授 陶山 啓子	慢性期（急性増悪期を含む）～回復期の複雑で多様な疾病とその症状および健康障害をもつ高齢者とその家族への看護を実践するために必要な理論やモデルについて学ぶとともに、高齢者に病態や症状、高齢者および家族のセルフケア能力等を総合的にアセスメントし、高齢者の意思と暮らし方を尊重した援助が実践できる能力を養う。
	高齢者看護学特別演習Ⅱ	教授 陶山 啓子 谷向 知	認知症の原因疾患の特徴や薬物療法について理解を深めるとともに、認知症の病期や病態およびBPSDの誘因や要因を適切にアセスメントし、ケアを実践する能力や、認知症をもつ人とその家族が安全で安心して暮らせるための環境調整する能力を養う。

授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
実 習 科 目	高齢者実践 看護実習Ⅰ	教授 陶山 啓子
	高齢者実践 看護実習Ⅱ	教授 陶山 啓子
課題研究		教授 陶山 啓子
共 通 科 目 A	看護教育論 看護管理論 看護理論 看護研究方法論 コンサルテーション論 看護倫理 看護政策論	共通授業科目参照
	臨床薬理学 フィジカルアセスメント 病態生理学	共通授業科目参照

(2016年9月16日現在)